

## OTC 医薬品の情報提供における現状と課題 ー解熱鎮痛薬を対象としてー

魚尾 優子

人口の高齢化などにより 2011 年度の日本の国民医療費は 38.6 兆円に達し、今後も高齢者の増加にともない医療費はさらに増大していくと予想されている。このような国民医療費の増大を抑制するためにセルフメディケーションが着目されているが、セルフメディケーションに使用される OTC 医薬品についての購入者への情報提供は、充分とはいえない。

本研究では、OTC 医薬品の購入者が医薬品を選択する際の情報支援を目的として、購入者の情報要求の観点にもとづいて OTC 医薬品の特徴を比較し、購入者が自ら適した医薬品を自ら選択できるようにする情報提供モデルを提案した。

研究対象とする医薬品の検索には、PMDA より提供されている一般用医薬品の添付文書情報の検索システムを利用した。検索された 377 件（2014 年 11 月 21 日検索）の解熱鎮痛薬のうち、「医薬品区分」が「一般用医薬品」である 192 件を調査対象とした。医薬品購入者の視点にもとづいて情報提供する項目を設定し、その項目にもとづいて添付文書から情報を抽出した。さらに、抽出した情報を、購入者が薬を選択する際の条件として利用できるようにするため、添付文書の項目ごとに整理した。

情報を提供はする項目としては、「製品名」「成分」「賦形剤の有無」「効能・効果」「用法・用量」「服用間隔」「対象年齢」「剤形」「服用してはいけない人」「注意が必要な人」「リスク区分」「製造販売会社」「特徴(形状)」「特徴(効果)」「特徴(その他)」の 15 項目を設定した。この項目にもとづき情報を抽出した結果、192 件の解熱鎮痛薬にはさまざまな特徴があることがわかった。たとえば、剤形として錠剤、次いで散剤が多く、成分にはアセトアミノフェン、イブプロフェン等の解熱鎮痛作用を有する成分と無水カフェイン等の解熱鎮痛作用を高める成分等が含まれていることがわかった。本研究では、これらの抽出した解熱鎮痛薬の特徴についての情報を利用して、購入者が購入者の視点で解熱鎮痛薬を選択できるようにするために、特徴にもとづいて解熱鎮痛薬を比較し、選択可能な情報提供モデルを提案した。提案したモデルでは、購入者が自分で OTC 医薬品の特徴を選択できるようになり、購入者はより主体的に OTC 医薬品の選択に関わることができるようになると考えられる。また、本研究で提案したモデルを利用すれば、いくつかの条件を指定することで購入者に合った OTC 医薬品を探すことができるため、薬局に行かずにインターネットで医薬品を購入する場合にも利用可能である。

OTC 医薬品購入の際に本研究で提案したモデルを使用することによって、購入者が、求める薬をより適切に比較・検討し選択できるようになり、セルフメディケーションの推進につながると考えられる。

(指導教員 岩澤まり子)